

- factor in the evolution of fruiting seasons in tropical forest. *Oikos*, 15: 274-281.
28. Taylor, F. G. 1974. Phenodynamics of production in a mesic deciduous forest. "Phenology and seasonality modeling" (ed. Lieth, H.) 237-254.
29. 筑波常治. 1978. 農業博物誌. 玉川大学出版部.
30. Watanabe, R. 1978. Seasonal division based on the phenological records in two different climatical regions of Japan. *Bull. Inst. Nature Educ. Shiga Heights, Shinshu Univ.* 17: 19-32.
31. Watanabe, R. 1979a. Phenological studies of woody plants in Kiyosumi region. 東京都立大学博士論文.
32. Watanabe, R. 1979b. Phenology of woody plants in Shiga Heights. *Bull. Inst. Nature Educ. Shiga Heights, Shinshu Univ.* 18: 55-60.
33. Wielgolaski, F. E. 1974. Phenological studies in Tundra. "Phenology and seasonality modeling" (ed. Lieth, H.), 209-214.
34. 吉岡邦二. 1942. 仙台における樹木の花暦. *生態学研究* 8: 30-34.

〔植物ニュース〕 44. ヒダアザミ *Cirsium hidaense* Koidz.

大分前のことであるが木曽郡南木曽町与川の小学校分校上の林内で見られない小形のアザミを見たことがある。初夏の頃でまだ花をつけていなかったのので採集を後日に期したまま何年も過ぎてしまった。

その後京都大学で当時木曽山林学校教諭であった重本勝氏が1935年に与川で採ったヒダアザミの標本を拝見した。重本氏が採集した場所は書面で白山神社の境内で高い杉の附近であったと記憶するとの返答をいただいた。ところがこの標本を誤ってワタムキアザミと記憶し小著「木曽谷の植物」にも他の産地とあわせて、そのように記述してしまった。

昨年再び京大で重本氏の標本を拝見し、これがヒダアザミであったことを知った。そこで前にいただいた書面を再び拝見すると、貴殿の書面で私の採品がヒダアザミであることを初めて知ったとあって、重本氏自身もそれがヒダアザミであることは、それまで知らなかったと思われる。私はその時点ではヒダアザミであることを知っていたはずである。

そこで昨1980年9月17日、同町文化財委員の上本文夫氏を誘って白山神社の大杉を中心に附近を捜したが、その辺は樹木が茂っていて草本類は極めて少なく、それらしいものは見当たらず前にはあったとしても絶滅したものと思われなかった。そこで今度は先年不明のアザミを見ておいた場所を捜すこととし記憶をたどりながら歩き廻って、ヒダアザミとみられるものを見つかることができた。

林内には小湧水が幾つか流れていて、その辺に点々と群生状をなしていた。花期には少し早いようであったが数点を採集することができた。早速北村先生にお願いしてヒダアザミと確認された。その際あわせて1973年10月16日、下伊那郡泰阜村の万古川溪

谷で採ったのもご覧願って、やはりヒダアザミと同定された。このものは日照もあってやや大形であったが数は少なかった。

これで飛騨地方の狭い範囲にしか分布していないとみられているヒダアザミが長野県南部にもあることがはっきりした。(奥原弘人)

45. キセルアザミ *Cirsium sieboldi* Miq.

キセルアザミ(マアザミ)の頭花は花が終れば上に向くが開花中は横に向いていて煙管の雁首状であるところから、この名がつけられたという。ところが昨1980年9月岐阜県の飛騨地方で植物を観察中見られないアザミのあるのに気づいた。葉はキセルアザミであるが頭花は開花中であるのに全部上向きである。富山市とその近くの湿地3ヶ所で見たのは百何十株であろうが全部同じ上向きであった。そこであの地方の調査を行っている会の会員に注意していただいたところ飛騨地方のキセルアザミは何れも開花中から上向きであるとのことであった。

これがキセルアザミであることは北村先生も確認されたが、このタイプのキセルアザミは飛騨地方特有のものとみられるので一応ヒダキセルアザミ f. *hidaense* と呼ぶこととしたい。(奥原弘人)

46. ミツバツツジ類 *Rhododendron* Sect. *Sciadorhoidion* Rehd. et Wils.

本誌前号で金井先生が梓川方面にはミツバツツジ類が見当たらないと記されているが、そのとおりで、ミツバツツジ類ばかりでなく、この方面にはツツジ類が少ない。ただ1ヶ所私は大分前であるがトウゴクミツバツツジを見ている。それはこの川の支流の奈川村黒川谷で、黒川が奈川に合流する黒川渡部落から約4km上流の林道端、最近砂防堰堤を造った直ぐその手前である。近年道路を広めて両端を削ったので数は減ったと思う。(奥原弘人)